

【平成 29 年度】逗子市スポーツ推進計画 評価調書

事業名	逗子市スポーツの祭典の開催
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(1)
事業のねらい	全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり。

主な事業	2015 年度～2016 年度 (平成 27 年度～28 年度)	2017 年度～2018 年度 (平成 29 年度～30 年度)	2019 年度～2022 年度 (平成 31 年度～34 年度)
①逗子市スポーツの祭典の開催	実施		
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	検討		実施

事業予算	29 年度	事業決算	29 年度
	700,000 円		494,620 円

平成 29 年度の実施結果・特筆すべき実績	
①逗子市スポーツの祭典の開催	<p>逗子市スポーツの祭典実行委員会が主催で、11 月 11 日(土)に開催した。昨年から2種目増加の37イベントを実施したが、参加者数は延べ1,644人と、昨年から大幅に減少した(昨年は、延べ2,413人)。</p> <p>メインアリーナの半面を使用して、「ボッチャ」、「カローリング」、「簡単バランス運動」、「ソフトバレー」等が体験できるブースを集めて「パラスポーツ・ニュースポーツブース」とし、年齢や障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる場を設けた。</p>
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	<p>「筋力アップ&チェアストレッチ」、「ターゲット・バードゴルフ体験」、「グラウンド・ゴルフ体験」、「ゲートボール体験」等、高齢者が参加しやすいイベントを実施した。参加者数は、合わせて85人であった。</p>
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	<p>「ブラインドサッカー®体験会」、聴覚障がいの選手による「ビーチバレー体験」、「ボッチャ」や、視覚障がいのガイドランナーである脇真由美氏による講演会及び体験会「目からウロコ～ガイドランナーの知られざる世界」等を実施し、競技性の高い障がい者スポーツ選手の技術に触れる機会を設けた。</p> <p>また、従来から障がいのある方が参加できる「みんなでスポーツ」や「みんなでダンス」を実施し、合わせて63人が、障がいの有無に関わらず一緒にスポーツを楽しむことができた。</p>
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	<p>オリンピックという面では、セーリング競技の普及啓発イベントとして、マリンスポーツに関する様々な質問に答える「マリンスポーツ展示相談会」及びヨットのラジコンで実際にヨットに乗った気分になる「ラジコンによ</p>

	<p>るヨット疑似体験」を実施し、合わせて 47 人が参加した。</p> <p>一方でパラリンピックという面では、脇真由美さん講演会&体験会「目からウロコ～ガイドランナーの知られざる世界」、「ブラインドサッカー@体験会」、「ボッチャ」の 3 種目を実施し、合わせて 142 人が参加した。</p>
--	--

平成 29 年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのイベントが、参加する競技やスポーツそのものの初心者でも参加でき、かつ、子どもから高齢者、障がいのある方に向けたイベントを多数実施したことから、「全ての市民へのスポーツ機会の提供」及び「スポーツのきっかけづくり」には大きく寄与した。 ・ロコモチェックと握力測定ができる「出張未病センター」によって、健康な心とからだをつくる「健康づくり」の役割を、「筋力アップ&チェアストレッチ」、「ゲートボール体験」等の高齢者向けのイベントや、「みんなでスポーツ」や「みんなでダンス」等の障がい者向けのイベントを実施することで、誰もが明るい生活を営むための「場づくり」の役割を、年齢や障がいの有無に関わらず参加でき楽しめる「パラスポーツ・ニュースポーツブース」を実施することによって、いきいきとした地域連携の輪をひろげる「交流づくり」の役割を、これら様々なイベントの実施によって、逗子アリーナや池子の森自然公園等、既存スポーツ施設の利用促進が図られ、活力に満ちたまちづくりを推進する「基盤づくり」の役割を十分に果たせた。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者といった年齢や、障がい者と健常者といった障がいの有無、日頃スポーツに触れる機会の少ない人と毎日スポーツを楽しむ人といったスポーツ機会の多寡等、あらゆる障害に妨げられず、より一層スポーツや体力づくりへの関心を高めるきっかけを創った。また、スポーツを通して様々な人と触れ合い、お互いに理解を深めることで、活力に満ちたまちづくりに可能な限りの効果をもたらし、スポーツに関わるきっかけが生まれやすい環境づくりを推進することができた。 	
所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。</p> <p>B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止</p>
<p>逗子市スポーツ推進計画の基本目標である「健康づくり」、「場づくり」、「交流づくり」、「基盤づくり」に寄与するイベント内容となり、事業のねらいである「全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり」としては、①、②、③を予定どおり進捗、④を予定より遅れていると評価した。全体としてBと評価する。</p>	

審議会での意見
<p>●評価は B が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・④（東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催）を予定より遅れていると評価しているが、スポーツの祭典でガイドランナー脇真由美氏の講演会及び体験会の実施や「ボッチャ」等、パラリンピックに関する種目に 142 人の参加があり、順調と評価できる部分もある。 ・年度が始まってから日程が周知されたため、逗子小学校及び池子小学校のイベントと日程が重なり、貴重な子どもの参加機会が失われた。日程は前年度に調整し、より多くの参加者を取り込めるよう取り組んでほしい。 ・1日のみの開催ではなく、1週間や「スポーツの祭典月間」とする等、長期間の開催にしても良い。「スポーツの祭典月間」に活動する各競技団体等の活動内容や場所等をホームページ等で周知することで、より多くの人の参加を促せるだろう。 ・普段スポーツをしないあらゆる市民に興味を持ってもらえるような参加しやすい内容であると思われる。東京 2020 オリンピック・パラリンピックも近づき、今後もスポーツの楽しさをアピール出来るように取り組んでほしい。

事業名	スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(2)
事業のねらい	地域のスポーツ指導者などを活用し、初めてスポーツをする方や、スポーツについてもっと知りたい・楽しみたい方の欲求を充実させ、新たな交流を創り出す。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	データベース化	データベースを活用した情報の提供と登録者の充実	
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	内容検討	学習会の実施及び見直し	
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

平成29年度の実施結果・特筆すべき実績	
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	昨年から引き続き、市ホームページ上で「小学生のためのスポーツ団体一覧」を公開するとともに、市立小学校の全児童に配付した。 また、市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報」を紹介した。
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	「スポーツの祭典2017」において、パラトライアスロンのガイドランナー 脇真由美氏の講演会及びガイドランナーの体験会を実施した。
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	市立体育館指定管理者の健康運動指導士の資格を持つ職員による「健康・体力相談」を、全36回実施した。(延べ120人[一昨年63人]) また、引き続き市立体育館トレーニングルーム内に設置されている未病センターにおいて、筋肉量、体脂肪量、BMI、体脂肪率を簡単に計測できる体重計が利用できる等、健康づくりの取組は充実している。

平成29年度の進捗状況(自己評価)と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
【短期的効果】 ・①について、「小学生のためのスポーツ団体一覧」に掲載済みのスポーツ団体には引き続き掲載をしても良いか確認するとともに、掲載可能な新規のスポーツ団体を呼び掛けた結果、1団体の追加があった(掲載取り止めは3件)。新しくスポーツを始めたい子ども向けの情報を最新のものに更新したことで、提供する情報の正確性が向上した。また、引き続き市ホームページにおいて県「スポーツ指導者情報」を紹介することで、県域で活動する指導者に関する情報提供は継続している。 ・②について、「スポーツの祭典2017」において、脇真由美氏の講演会及び体験会「目からウロコ～ガイドランナーの知られざる世界」を開催した。比較的なじみの薄いパラスポーツに携わる専門家目線でのパラスポーツの紹介や経験談で興味を惹き、その後実際にガイドランナーを体験することで、パラスポーツの意義や技術を身近に感じてもらうことができた。	

- ・③について、「健康・体力相談」は依然として予約制であるが、回数や延べ人数は増加した（36回、120人）。「健康・体力相談」が周知され、スポーツや健康づくりに取組もうとする市民が拡がりを見せていると推測される。また、市立体育館トレーニングルーム内の未病センターも、健康づくりに取組もうとする市民のセルフケアの一助となっている。

【中・長期的効果】

- ・スポーツ情報の継続的な提供により、市民のスポーツ実施の習慣化や健康・体力づくりに大きく寄与する。また、比較的なじみの薄いパラスポーツの選手に触れることで、未知の知識や技術に興味を抱いてもらい、スポーツに対する意識付けを図ることができる。これにより、市民と一緒にスポーツを楽しむ交流の場が増える。
- ・「健康・体力相談」における情報提供や対応により、スポーツによる健康づくりや未病対策の意識付けの向上が図られる。

所管課による自己評価	A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。
	B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止

- ・①について、平成27年度から「小学生のためのスポーツ団体一覧」の配付による情報提供を開始し、毎年見直しを行っている。また、「小学生のためのスポーツ団体一覧」に掲載されているスポーツ団体に、逗子市市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」への登録を促すことで、子ども向けスポーツチームのデータベース化のさらなる充実を図っている。一方で、スポーツ指導員のデータベース化は、外部指導員による指導が事故等につながることも踏まえ、どのような条件を付して情報提供を行うかを検討したうえで、具体的な方法を考えていく。評価は、予定より遅れているとする。
- ・②について、専門家の発掘と活用を「逗子市スポーツの祭典」で実施し、逗子市スポーツ推進計画の基本目標の一つである「健康づくり」に寄与するイベント内容となった。評価は、予定どおり進捗とする。
- ・③について、「健康・体力相談」の回数・延べ人数や内容の充実を図ることができ、「健康づくり」に寄与することができた。評価は、予定どおり進捗とする。
- ・全体としてBと評価する。

審議会での意見

- 評価は **B** が適切と考える。
- ・現在、子ども会の活動が縮小傾向であり、母親同士の縦と横のつながりが薄れている中、「小学生のためのスポーツ団体一覧」は、情報収集媒体として補完していると言える。一例ではあるが、スポーツ団体（少年野球チーム）に入部する子どもが増加傾向にあり、「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報提供の効果が十分に発揮されている。
- ・指導者の派遣について、どの市町村でも同様の課題を抱えているが、派遣する側と派遣を受ける側のニーズが合致しづらい。神奈川県との情報共有を進めて、より良い方法を模索する必要があるだろう。
- ・「健康・体力相談」において、生活実態に合わせた相談体制が創られており、このような場は内容を充実させて継続できたら良い。
- ・市立体育館や市役所に未病センターが設置されているのは、逗子が「未病」を意識して実施している表れであり、取組みとして素晴らしい。市立体育館の未病センターでは運動面のサポート、市役所の未病センターでは健康面のサポートと役割が分化されており、特に市役所の未病センターに保健師が常駐しているのは大変良い。今後は、未病センターからスポーツ推進への橋渡しが上手くいくと良い。

事業名	小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(3)
事業のねらい	子どもの運動不足解消や体力・運動能力の低下の改善のための、情報提供及び環境づくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	派遣先との調整	指導者の派遣	
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	派遣先との調整	指導者の派遣	
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

平成29年度の実施結果・特筆すべき実績	
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	市立中学校2校(平成28年度は3校)において、学校支援地域本部が派遣するかたちで、PTA・OBOG・顧問の紹介等による地域講師が部活動の指導を行った。派遣先の部活動は2校合計で4部、9名の外部指導員が派遣された(久木中:ソフトボール部3名、沼間中:テニス部1名、剣道部4名、バドミントン部1名)。
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	市立体育館及び都市公園有料公園施設指定管理者が子育て支援課から委託を受けて、体験学習施設スマイルにおいて、子ども体育教室を実施した。小学4年生～中学3年生を対象に、3種目(バレーボール、バドミントン、卓球)実施し、受講者数は合計49人であった。
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	<p>昨年から引き続き「小学生のためのスポーツ団体一覧」のホームページへの公開を行い、合わせて市立小学校全児童にも配付した。掲載情報は、新規のスポーツ団体を了承のうえ追加する等、情報の更新をして、充実を図った。</p> <p>また、市立体育館指定管理者による、子どもも対象になる「健康・体力相談」の回数を増やして実施した。</p>

平成 29 年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①について、外部指導者により、普段と異なる視点での幅広い指導が行われることが期待できる。 ・③について、毎年「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を更新することで、子どもたちにとって充実した情報提供が行える。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動へ指導者を派遣することにより指導者が増加し、多様かつきめ細かな指導が行われ、子どもの運動能力向上が期待できる。 ・スポーツ団体の情報提供を継続的に行うことで、子どもたちがスポーツを始めるきっかけを提供し続けることになり、市内のスポーツ団体の活性化が図られる。市内スポーツ団体が活性化することで、参加する子どもにも好影響を与え、運動不足の解消や子どもの健康・体力づくりに対して、好循環を生み出すことが期待できる。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・①、②について、指導者の派遣が行われているため、予定どおり進捗と評価する。 ・③について、「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報提供は行っているが、健康づくりに関する相談対応は全年齢対象の「健康・体力相談」による対応のみであるため、総合して予定どおり進捗と評価する。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見
<p>●評価は <input type="text" value="B"/> が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的に指導できる指導者の派遣制度があることは、学校にとってはありがたい。 ・近年は、運動をする子どもと運動をしない子どもの二極化が激しくなっており、体を動かす際の危険予知能力が乏しい子どももいる。危険予知は経験的に覚えることも多く、小中学生の時から危険予知の学習やケガの防止のためにも、運動をしてもらおうと良い。 ・あえて運動が不得意な子どもたちへ呼びかけて、体を動かすことの実感・達成感を体験できるプログラム等で楽しさを知ってもらえれば、スポーツに対する意識が変わるのではないか。スポーツのきっかけ作りの場を提供できれば良い。

事業名	「うみかぜクラブ」の活動内容の充実
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(4)
事業のねらい	生涯にわたって、誰もが、気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与し、クラブの自立化・安定化を図る。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①経営の自立化に向けた検討・調整	自立に向けたビジネスモデルの検討		自立化
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
④スポーツメニューの見直し	取り組み方の検討	実施	見直しと実施

※事業決算については、うみかぜクラブの自主財源により事業を実施していることから省略。

平成29年度の実施結果・特筆すべき実績																									
①経営の自立化に向けた検討・調整	<p>うみかぜクラブ運営委員会において、収支の改善を目的に、新たな収入の確保及びメニューの見直しによる支出の削減に係る具体的な方策を検討し、平成30年度から実施することに決定した。</p> <p>新たな収入の確保としては、1回100円の都度会費を、一部のメニューから全てのメニューへ対象を拡大した。また、ジュニアの年会費も値上げした。</p> <p>メニューの見直しとしては、平成31年度から施設使用料の負担が発生することを鑑み、施設使用料負担の大きい逗子文化プラザ市民交流センター屋内温水プールで実施していたメニューは廃止し、その他参加人数・参加率に合わせてメニューの廃止、追加、時間の変更を行った。</p>																								
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	<p>メニュー数は、昨年と比較して2メニュー（英会話教室、ターゲット・バードゴルフ）少ない18メニューであり、それに伴い、延べ開催数は1,062回（H28は1,209回）と減少した。延べ参加者数も32,238人（H28は33,111人）と減少しているが、延べ開催数の減少率と比較すると、減少率は少ない（延べ開催数87.8%、延べ参加者数97.4%）。</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>105人</td> <td>118人</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>26人</td> <td>24人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>130人</td> <td>138人</td> <td>126人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>635人</td> <td>634人</td> <td>626人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>896人</td> <td>914人</td> <td>859人</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年に引き続き、国保健康課が実施している特定健診の受診者向けに、うみかぜクラブメニューの1回無料券を配付して、新規の人の利用を促した。</p> <p>広報活動については、平成29年度もチャレンジデーでのPRコーナーの設置や広報ずしへの掲載を行った。また、全てのメニューにおいて初回限定で無料とする、2月の「うみかぜまつり」ではバドミントン及び卓球の無料体験を開催する等、新規の人でも参加しやすい工夫を行った。</p>		H27	H28	H29	0～19歳	105人	118人	86人	20～39歳	26人	24人	21人	40～59歳	130人	138人	126人	60歳～	635人	634人	626人	合計	896人	914人	859人
	H27	H28	H29																						
0～19歳	105人	118人	86人																						
20～39歳	26人	24人	21人																						
40～59歳	130人	138人	126人																						
60歳～	635人	634人	626人																						
合計	896人	914人	859人																						

③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体力づくり教室の実施	<p>昨年から引き続き、高齢者対象のメニューとして「高齢者体力アップ体操」を実施し、2,092人（H28は2,104人）の参加があった。また、高齢者対象のメニューではないが、「健康体操」は大変多くの高齢者が参加しているメニューであり、3,663人（H28は3,433人）の参加があった。</p> <p>障がい者向けのメニューとしては、「健康体操」や「卓球」が挙げられ、障がい者についても可能な限り受け入れている。</p>
④スポーツメニューの見直し	<p>平成31年度から施設使用料の負担が発生することを鑑み、施設使用料負担の大きい逗子文化プラザ市民交流センター屋内温水プールで実施していたメニューについて見直しを検討し、平成30年度から市民交流センターの自主事業へと引き継ぐことに決定した。</p>

平成29年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①について、うみかぜクラブの自立に向けた様々な具体的な方策が検討され、平成30年度から実施されることに決定した。助成金の終了や、施設使用料負担が発生しても対応できる、経営の自立化が図られている。 ・②④について、現状に即したメニューの見直しを行い、延べ開催数は大きく減少したにも関わらず、延べ参加者数の下げ幅は小さかった。様々な市民のニーズに沿ったメニューを提供することで、広い世代を対象にしつつ、運営の自立化に近づくことが期待できる。 ・③について、高齢者や障がい者がスポーツや体力づくりに向けた運動を取組むきっかけを提供できた。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支の改善が図られ、収入が増加し支出が減少することで、今後自己財源比率の向上が期待できる。 	

所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 <input checked="" type="checkbox"/> B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・①について、うみかぜクラブの母体である逗子市体育協会と連携し、うみかぜクラブの経営の自立化・安定化に向けた具体的な方策が検討され、平成30年度から実施されることに決定したため、予定を前倒して進捗と評価する。 ・②、③、④について、検討した取り組みを既に実施し、また改善を重ねながらニーズに合わせてメニューの変更を行う等、より良い方法を検討しているため、予定どおり進捗と評価する。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見	
<p>●評価は <input checked="" type="checkbox"/> B と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみかぜクラブの規模が拡大傾向に見られ、事業だけで運営費を賄うことには限界があるのではないかと。行政の努力も必要であるが、うみかぜクラブに協賛や連携してもらえる地元の企業を探す等の工夫もほしい。 ・開催メニュー数が減少したにも関わらず参加者数がほとんど減少しなかったため、1メニュー当たりの平均参加者数は増加しており、そのことは誇りを持って良い。特に、高齢者・障がい者向けのスポーツ・体力づくり教室関係では年々参加者が増加しており、参加しやすい種目が検討されていることは評価したい。 ・市民にも受益者負担の原則は定着してきており、会費は当然安価な方が良いが、高齢者の負担にならない金額であれば良い。周知活動を継続して行い、会費以上にお得感があるメニューを検討してほしい。 	